

地方創生推進プロジェクト進捗管理シート

《丹(まごころ)の里創生総合戦略基本情報(第2期総合戦略抜粋)》	
基本目標1 <u>希望が叶い、みんなで子育てを応援するまちをつくる</u>	
数値目標	合計特殊出生率（ベイズ推定値） 1.66（2008～2012年） → 1.80（2018～2022年）
基本的方向	<p>ア 若い世代が希望を持って結婚できるよう、独身者に対する支援を行うとともに、若者が集う場や機会を設けることで、出会いを創出する。</p> <p>イ 妊娠・出産・子育て支援と、出産する喜び、育てる楽しさが感じられるきめ細やかで切れ目のない支援に取り組み、誰もがこの市で子育てしたいと思える環境をつくる。</p> <p>ウ 子どもたちが安心して地域で暮らし、子育て世代が安心して子育てをし、働くことができる環境・地域づくりに取り組む。</p>
施策1-1 <u>結婚・出産・子育ての希望が叶うまちをつくる</u>	
KPI	市の子育て支援・環境に満足している子育て世代の割合 49.0% → 59.0% (H30) (R6)
	ミルネの子育て世代包括支援センター事業利用件数 490件 → 550件 (H30) (R6)

○計画(Plan)：令和2年度の地方創生推進プロジェクト

手段2	妊娠の希望を叶える支援や産前産後のサポートを充実させるとともに、地域を挙げて、新しい命の誕生をお祝いしていることを子育て世代が実感できる取組を増やす。
取組	<p>地域とともに出産や成長を喜ぶ仕組みや産前産後のサポートの充実</p> <p>(1)産前産後の身体的・精神的に不安定な時期に、核家族化、若年妊娠、晩婚による出産年齢の高年齢化、経済的問題等の理由により不安、孤独感、うつ状態を抱える母親が増加傾向にあり、産前産後期は特に安心して出産・子育てできる環境づくりが必要であり、次のような取組を検討している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠確定に至る診察費助成事業 ・若年がん患者妊孕(にんよう)性温存治療費助成の新設 <p>(2)出産時に周りから祝福されていると実感できる機会が少なく、これからもこの地域で子育てしたいと感じてもらえるような取組が必要である。そこで、子育て世代の応援に分野横断で取り組むため、庁内検討委員会を設置し、妊娠期から乳幼児期に必要な用品を贈る「ハッピーバースパック」の検討を進めている。今後、どのタイミングで何を贈るかについて、委員会で検討していく。</p>

《丹(まごころ)の里創生総合戦略基本情報(第2期総合戦略抜粋)》

施策1-2 みんなで子育てを応援するまちをつくる

KPI	地域全体で子育てを支えていると感じている市民の割合 46.7% → 53.0% (H30) (R6)
	ワーク・ライフ・バランスが取れていると感じている市民の割合 43.7% → 63.0% (H30) (R6)

○計画(Plan): 令和2年度の地方創生推進プロジェクト

手段5	子どもにとって、本市で暮らす豊かさ（自然体験・遊び、心地の良い場所）が実感できる場（まちのサードプレイス）を充実させる。
取組	<p>子育て世代のニーズに適う公園機能の整備方針の策定</p> <p>丹波市を取り巻く社会情勢や都市環境は変化が続いており、平成7年以降、特に大学・就職期の10代後半から20代前半の人口流出の多さとその後の人口の流入の少なさにより若い世代の人口が減少し、出生数の急激な減少に拍車をかけている。</p> <p>一方で、新たなまちづくりの核となる県立丹波医療センターや市健康センターミルネの完成など、好循環をもたらすと期待される変化もある。</p> <p>これらの社会情勢や都市環境の変化を背景に、人口減少に対する地域活性化策としてまた、観光・交流の賑わい拠点づくりとして、公園機能の充実が求められている。</p> <p>そこで、公園の整備に関する基本的な考えをまとめた「都市・自然環境を活かした公園整備方針(案)」をもとに関係部課で調整を行なっている。</p> <p>公園緑地は、子どもから高齢者まで幅広い年齢層のレクリエーション活動・健康運動・文化活動の場であるとともに、災害時の緊急避難場所など多様な役割があるが、今回の整備方針は丹波市の都市・自然環境を活かした公園機能の充実を目的としており、①丹波市ならではの地域資源、②交通の結節点、③スポーツ施設の公園機能の強化、の3点に焦点を当て公園機能を整備する。</p> <p>○都市・自然環境を活かして重点的に整備する公園（案）</p> <p>①水分れ公園（地域資源） ②今出川親水公園（地域資源） ③丹波竜の里公園（地域資源） ④道の駅「丹波おばあちゃんの里」（交通の結節点） ⑤青垣児童公園（交通の結節点） ⑥氷上さくら公園（交通の結節点） ⑦スポーツピア市島（スポーツ施設の公園機能の強化） ⑧（仮称）山南中央公園（スポーツ施設の公園機能の強化） ⑨春日総合運動公園（スポーツ施設の公園機能の強化） ⑩青垣総合運動公園（スポーツ施設の公園機能の強化）</p>

地方創生推進プロジェクト進捗管理シート

《丹(まごころ)の里創生総合戦略基本情報(第2期総合戦略抜粋)》	
基本目標2 魅力的なしごと・多様な働き方・働きやすい職場をつくる	
数値目標	25歳～44歳の女性の就業率 79.4% (2015年) → 82.0% (2025年)
基本的方向	<p>ア 雇用施策と子育て支援施策を連動させ、子育てしながら働きたいニーズに応える。</p> <p>イ 女性の視点で女性のしごと環境（起業、働きやすい職場や復帰しやすい職場づくりなど）を整える。</p> <p>ウ 先進技術を活かし、市内企業の生産性の向上に取り組むとともに、新しいビジネスの創出にむけて、積極的にオープンデータに取り組む。</p> <p>エ 高等学校卒業後、大学卒業後、就職後の各ライフステージに応じて、市内就職を喚起するイベントや情報発信を行う。</p> <p>オ 有機農業や森林の多面的機能を活かした林業など、風土を活かした生産物の高付加価値化（ブランド化）を図るとともに、それを担う人材を呼び込み育てる。</p> <p>カ 市内及び近隣自治体への通学・通勤など日常生活を支えるため、市内外の移動を意識した交通軸と交通網の活性化・最適化に取り組む。</p>
施策2-2 多様な働き方・働きやすい職場をつくる	
KPI	病児保育のサービス拠点数 5拠点 → 14拠点 (H30) (R6) ※R2現在、9拠点
	年齢や性別を問わず、働きやすい環境が整っていると感じている市民の割合 21.2% → 25.0% (H30) (R6)

○計画(Plan): 令和2年度の地方創生推進プロジェクト

手段1	子育て世代が働きやすい環境をつくるため、認定こども園全園の病児保育実施と、小児科診療と連携した病児保育拠点の整備を実現する。
取組	<p>仕事と子育ての両立を応援する取組の検討（病児保育のあり方）</p> <p>現在、認定こども園13園中、病児保育（体調不良児対応型）は9園が実施している。しかしながら、インフルエンザ等の感染症に罹患した病児の受入れ体制は整っていない現状である。ひとり親家庭や核家族化、共働きの家庭が増えていく中で、仕事と子育ての両立を支える取組として、丹波市の幼児（概ね生後6か月）から小学校6年生までの病児を受け入れることのできる病児保育(病児対応型)が実施できるよう、新たな体制づくりを検討している。</p> <p>他市の状況を調査しながら、丹波市としての最善の流れ（人や情報がどのように動いていくか）をまとめ、保護者のニーズに合った拠点の整備を進める。</p>